

# 盛岡さんさ踊り

太鼓の群舞が織りなすその音は、踊る者はもちろん、  
観る者のからだの芯にまで響き渡り、盛岡の夜にこだまします。

## さんさ踊りの由来

藩政時代より踊り受け継がれてきた“さんさ踊り”の起源は、三ツ石伝説に由来しています。

その昔、南部盛岡城下に羅刹らせつという鬼が現れ、悪さをして暴れておりました。困り果てた里人たちは、三ツ石神社の神様に悪鬼の退治を祈願しました。

その願いを聞き入れた神様は悪鬼をとらえ、二度と悪さをしないよう誓いの証として、境内の大きな三ツ石に鬼の手形を押させました。(岩に手形…これが“岩手”の名の由来だとも言われています。)

鬼の退散を喜んだ里人たちが、三ツ石のまわりを「さんささんさ」と踊ったのが“さんさ踊り”の始まりだと言われています。

祭りの会場では、ミスさんさ踊りや伝統さんさ踊り団体など様々な踊りを観て楽しめます。



ミスさんさ踊り・さんさ太鼓連による三ツ石神社への奉納演舞の様子

## “輪踊り”について

パレード終了後、会場内の各箇所において“輪踊り”が開催されます。“輪踊り”はミスさんさ踊りや一般のパレード参加者に混じり、どなたでも自由に参加する事ができます。(もちろん、浴衣を着ていない方でも参加可能です!)

また、踊り方が分からなくても「さんさ・おへれんせ師匠」が踊り方を優しくレクチャーしながら、輪踊りにお誘いします(黄色いタスキが目印です)。



## さんさ・おへれんせ師匠

「さんさ・おへれんせ師匠」とはパレード終了後の輪踊りの際、一般観覧客の方々に対して、踊り方を教える人々の事です。(“おへれんせ”とは「お入りなさい」という意味です)目印は「さんさ・おへれんせ師匠」と書かれた黄色のタスキです。



## 世界記録への挑戦 ～記録奪還～

平成19年(2007年)6月10日、盛岡さんさ踊りの30回を記念して、『和太鼓の同時演奏記録』世界一を目指すイベントが行われました。

2,571人の老若男女が息の合った太鼓のリズムと演技を繰り広げ、その当時台湾が保有していた世界記録を620個上回る快挙を達成。見事、「世界一の和太鼓同時演奏記録」として認定されました。

しかし、2011年に熊本市で行われたイベントにおいて僅か207人の差で更新されてしまいました。

そして平成26年(2014年)6月29日、『和太鼓の同時演奏記録』世界一奪還を目指すイベントが岩手県営運動公園陸上競技場にて行われました。当日は小雨がちらつくあいにくの天候でしたが、3,437人の老若男女が息の合った太鼓のリズムと演技を繰り広げ、見事世界記録を奪還することができました。遠方からも多くの方々にご参加いただき、また、東北六魂祭のご縁で山形花笠まつりの皆様にもご参加いただくなど、絆を深めながら築いた記録となりました。



2014年。岩手県営運動公園陸上競技場

詳しくは「盛岡さんさ踊り」  
ホームページをご覧ください。

